

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞
(1月29日 午前11時30分現在)

平成24年1月29日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（停止中）

- 平成23年3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- 平成23年3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- 平成23年12月10日午前10時11分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。

平成24年1月29日午前9時37分、原子炉への注水について、高台炉注水ポンプの注水配管切替のため、給水系からの注水量を約4.5m³/時から約5.5m³/時、炉心スプレイ系からの注水量を2m³/時から約1m³/時に調整しました。

現在の注水量は給水系配管から約5.5m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約1m³/時です。

- 平成23年4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成23年8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成23年10月28日、放射性物質の飛散を抑制する原子炉建屋カバーの設置工事が完了しました。
- 平成23年11月30日午後4時4分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成23年12月19日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。

2号機（停止中）

- 平成23年3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- 平成23年3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- 平成23年9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。

平成24年1月25日午後5時10分、原子炉への給水系配管からの注水について、高台炉注水ポンプからタービン建屋内炉注水ポンプへの切替を実施しました。

現在の注水量は給水系配管から約7.1m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約1.7m³/時です。

- 平成23年5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成23年6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成23年10月28日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。
- 平成23年12月1日午前10時46分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成24年1月19日午前11時50分、使用済燃料プール塩分除去装置の運転を開始しました。

3号機（停止中）

- 平成23年3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。

- 平成 23 年 3 月 25 日午後 6 時 2 分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
 - 平成 23 年 9 月 1 日午後 2 時 58 分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
 - 平成 24 年 1 月 27 日午後 3 時 1 分、原子炉への給水系配管からの注水について、タービン建屋内炉注水ポンプから高台炉注水ポンプへの切替を実施しました。
平成 24 年 1 月 29 日午前 10 時、原子炉への注水量の低下が確認されたため、炉心スプレイ系からの注水量を $1.5\text{m}^3/\text{時}$ から約 $2\text{m}^3/\text{時}$ に調整しました。
- 現在の注水量は給水系配管から約 $7.1\text{m}^3/\text{時}$ 、炉心スプレイ系注水配管から約 $2\text{m}^3/\text{時}$ です。
- 平成 23 年 6 月 30 日午後 7 時 47 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
 - 平成 23 年 7 月 14 日午後 8 時 1 分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
 - 平成 23 年 11 月 30 日午後 4 時 26 分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
 - 平成 24 年 1 月 14 日午後 3 時 18 分、使用済燃料プール放射性物質除去装置の運転を開始しました。

4号機（定期検査で停止中）

- 平成 23 年 3 月 15 日午前 6 時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋 5 階屋根付近に損傷を確認しました。
- 平成 23 年 7 月 31 日午後 0 時 44 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成 23 年 11 月 29 日午前 10 時 58 分、4 号機の使用済燃料プールにおいて塩分濃度を低減するためイオン交換装置の運転を開始しました。
- 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

5号機（定期検査で停止中）

- 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- 平成 23 年 3 月 19 日午前 5 時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- 平成 23 年 7 月 15 日午後 2 時 45 分、本設の残留熱除去海水系 (B 系) ポンプによる残留熱除去系 (B 系) の運転を開始しました。
- 補機冷却海水系ポンプ (B) の復旧作業が完了したため、平成 23 年 12 月 22 日午前 10 時 11 分、試運転を開始し、同日午前 11 時 25 分、異常がないことを確認したため、本格運用を開始しました。
- 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

6号機（定期検査で停止中）

- 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- 平成 23 年 3 月 19 日午後 10 時 14 分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- 平成 23 年 9 月 15 日午後 2 時 33 分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

その他

- 平成 23 年 6 月 13 日午前 10 時頃、2、3 号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。

- 平成 23 年 6 月 17 日午後 8 時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7 月 2 日午後 6 時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを經由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。
- 平成 23 年 8 月 19 日午後 7 時 41 分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- 平成 23 年 10 月 7 日午後 2 時 6 分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6 号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。
- 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、平成 23 年 10 月 28 日、1～4 号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- 平成 23 年 12 月 13 日午後 0 時 25 分、淡水化装置（逆浸透膜式）において、淡水化装置（逆浸透膜式）処理後の濃縮水発生量の抑制を目的とした、再循環運転による運用を開始しました。
- 集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕間のトレンチにおける放射性物質を含む溜まり水の発見（平成 23 年 12 月 18 日）を受け、平成 24 年 1 月 11 日、発電所構内のその他のトレンチ等の点検を開始しました。
- 平成 24 年 1 月 28 日午前 10 時から午後 4 時まで、6 号機タービン建屋内から仮設タンクへ溜まり水の移送を行いました。
- 平成 24 年 1 月 28 日午後 10 時 6 分から 1 月 29 日午前 8 時 18 分まで、3 号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕およびプロセス主建屋）へ溜まり水の移送を行いました。
- 平成 24 年 1 月 28 日午後 10 時 12 分から 1 月 29 日午前 8 時 21 分まで、2 号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕およびプロセス主建屋）へ溜まり水の移送を行いました。
- 平成 24 年 1 月 29 日午前 8 時 49 分、第二セシウム吸着装置において、徐々に処理流量に低下傾向が見られることから、フィルタの逆洗をするため、当該装置を一時停止しました。
- 平成 24 年 1 月 29 日午前 9 時 50 分頃、当社社員が原子炉注水系の流量調整操作作業において、現在待機中の原子炉注水用の非常用高台炉注ポンプ（C）系の流量計付近より水が漏えいしていることを確認しました。その後、漏えい部の近傍の弁を閉め、同日午前 9 時 55 分に漏えいが停止したことを確認（漏えい量は確認中）しました。漏えい箇所は高台（事務本館前）で、付近の側溝に流れ込んだ形跡があることから、側溝から海への流出の可能性について、現在確認中です。漏えい箇所付近の表面線量率は周辺の雰囲気線量率と同等であることを確認（蒸発濃縮装置出口水の至近の放射性物質濃度は主要 3 核種（平成 23 年 12 月 20 日採取分）で検出限界未満（ヨウ素 134： 1.6×10^{-2} Bq/cm³、セシウム 134： 2.9×10^{-2} Bq/cm³、セシウム 137： 3.3×10^{-2} Bq/cm³）、全ベータ核種（平成 23 年 11 月 29 日採取分）で 6.0×10^{-1} Bq/cm³）しました。なお、原子炉への注水は常用高台炉注ポンプ（A）および（C）にて継続中です。
- 平成 24 年 1 月 29 日午前 9 時 35 分頃、4 号機使用済燃料プール代替冷却系において、システムの異常に関する警報（4 号 S F P 代替冷却システム異常）が発生しました。現場を確認したところ、二次系の冷却水を循環させるポンプ（A）が停止し、二次系の冷却水の循環が停止していることを確認（警報発生時の燃料プール温度：21℃）しました。その後、現場を確認したところ、二次系の A 系のエアフィンクーラーユニット（A 1～A 4 の 4 ライン）の A 2 ラインから冷却水が漏えいしていることを確認しました。漏えい箇所であるユニット A 2 ラインの弁を閉操作したことにより、水漏れが停止したことを確認しました。当該の水は消火系の水（ろ過水タンクからの水）であり、放射性物質は含まれていません。午前 11 時 14 分、停止していた二次系のポンプ（A）を再起動し、使用済燃料プール水の冷却を再開（冷却再開時の燃料プール温度：21℃）しました。

以 上